

# 女子短大生の描く理想的人間像の調査研究

有 元 石 太 郎\*

## 序

戦後一般的に言われていることは、多くの人々のあいだに、はっきりした理想的人間像の確立がないということである。もしそれが事実であるとすれば、それは教育界ともつながる大きい問題である。

1つの教育の場にある者が、自己の教育方針をたてるうえにも、また自己評価をするうえにも、その対象を理解するうえにも、彼らのもつ人間像を調査研究するということは、何よりも先行するわれわれの重要な課題であると思われる。

わたくしはこのような考えから、中学校・全日制高等学校・定時制高等学校・男女短大生合計627名のもつ理想的人間像を、昭和40年に調査した。本報告はその第一報で、前記対象のうち、女子短大生69名を選び出して検討を加えた。

## 調 査

### (1) 調査方法

昭和40年1月21日実施。対象は某短大女子学生1年生のなかから、69名を任意抽出によって選び、次の項目についての回答を求めて調査した。

## 設問

1. あなたの最も理想とする人間（歴史上でも現存者でもよい）はだれですか。1名だけその名をあげなさい。

2. その人のどんな点が偉いと思いますか。

1行以内で書きなさい。

3. それは次のどれによって、そう思うようになりましたか。その項目を1つ（もし2つのときはその順位をつける）書きなさい。

1. 雑誌や本 2. 教科書で習った 3. テレビ

4. ラジオ 5. 映画 6. 先生の話（授業、教科書以外） 7. 家人の話 8. 友人の話 9. 授業（教科書外） 10. その他（具体的に）

(2) どんな人物を理想としたか

調査結果は表1のようになった。この表による傾向としては、その最も多いのは母・父母・父・祖母という家族のなかに理想像を求めたものが、合計17名24.6%、次が理想像なしの15名21.7%、両者合計は46.3%である。約半数の学生は理想像を両親に求めるか、あるいは理想像なしという結果になった。

この表に出ている千津は武者小路著「幸福な家族」にある人物、大島みち子は「愛と死をみつめて」に出る人物、土屋医師は父の命を救った方、尾崎二右子は妻としても母としての理解

女子短大生の描く理想的人間像の調査

表1 某女子短大生の描く理想的人間像 (1965)

順位	人 名	人員	%	順位	人 名	人員
1	理想像なし	15	21.7	11	織田信長	1
2	母	9	14.5	11	武者小路実篤	1
3	父	5	7.2	11	千 津	1
4	ケネディー夫人	4	8.5	11	大島美智子	1
4	ケネディー	4	5.8	11	美智子	1
6	高校の先生	3	4.4	11	茅 誠司	1
7	ナイチンゲール	2	2.9	11	土屋 医師	1
7	林 ふみ子	2	2.9	11	日 蓮	1
7	野口英世	2	2.9	11	神	1
7	シュバイツァー	2	2.9	11	壺井 栄	1
11	父	2	1.5	11	大石先生(22の瞳)	1
11	祖母	1	1.5	11	サルトル	1
11	ガンジー	1	1.5	11	尾崎二右子	1
11	二宮金次郎	1	1.5	11	大野重男	1
11	キリスト	1	1.5	11	男 小年係性	1

深い人物である。

次に第1表の理想像の類型別分類を試みて、第2表を得た。この表には、芸術家・実業家・運動家・軍人・発明家は現れていない。

表2 某女子短大生の描いた理想的人間像の分類

順位	類 型 別	内容の分類	小計	合計	%
1	肉 身	父 母 祖 母	16 1	17	24.6
2	な し			15	21.7
3	為 政 者	歴史上の男性 為政者 夫人	6 4	10	14.5
4	社会事業家	男 性 女 性	3 2	5	7.2
5	学 者	歴史上の人物 現 存 者	2 2	4	5.8
5	文学関係者	男 性 女 性	2 2	4	5.8
7	小説中の人物	男 性 女 性	0 3	3	4.4
7	教 育 家			3	4.4
7	宗 教 家	具 体 的 人 物 象 抽	2 1	3	4.4
10	皇 室 関 係			1	1.4
11	そ の 他			4	5.8

どんな場面から理想像を求めているかを調査して表3を得た。

表3 某女子短大生の理想的人間像を求めた場面

場 面		人 数	%
時代	歴 史 上 の 人 物 現 存 の 人 物	15 35	50 72.4
集団関係	個 人 的 存 在 人 物 社 会 的 存 在 人 物	28 16 7	51 73.9
場所	仮 空 間 の 人 物 身 辺 の 人 物	4 23	27 31.9
不明	場 面 不 明 理 想 的 人 間 像 な し	2 15	17 24.6

表3においては、家族関係、ケネディー夫人、先生は、その理想とした理由が、個人対個人的言動にあるために、これを個人的存在人物の類型に入れ、小説家・学者・宗教家は、社会的存在人物のなかに入れた。

次に理想的とされた人物の性別および国籍の大別を調べて第4表を得た。この表において

表4 某女子短大生の描いた理想的人間の性別および国籍

男子	25	日 本 人	37
女子	23	外 国 人	15

は、女子学生の描いた理想像のうち、父母としたものの人数は性別のうちから除いた。

(3) 理想とした理由

女子短大生が、どんな理由によって、自己の理想的人間を求めたかを知るために、表5のような類別に従ってその調査を試みた。

表のうち「あこがれ」とは、個人の言動に心が引かれたものであり、個人的理由のなかに含めたものは、個人の特性、つまりその個人の意志力、勤勉さなど、例えばケネディーにしても、その業績や他人対の問題に着眼しているのではなく、彼の明朗さや勇敢さというような人間性に影響されているのである。

表5 某女子短大生の描いた理想的人間像の理由  
(理由の重複により調査人員数より多い人数がでている。)

順位	事 項	人 数	%	
1	な ん と な く	0	67	97.1
2	あ こ が れ	33		
3	個 人 的 な 理 由	27		
4	他 人 と の 関 係	7		
5	社 会 と の 関 係	10	21	30.4
6	人 類 の た め	6		
7	国 の た め	5		
8	世 界 の た め	0		
0	真 理 の た め	0	0	0

他人との関係には、愛情とか温さというような他人との関係によって成立するものを含めた。

表6はその描いた理由の順位を示すもので、「なんとなく」という理由はなくなっているが、「世界のため」とか「真理のため」という理由は、いづれも姿を見せていない。

表6 某女子短大生の理想的人間とした理由順位

順位	事 項	人 数	%
1	あ こ が れ	33	47.8
2	個 人 的 な 理 由	27	31.9
3	社 会 と の 関 係	10	14.5
4	他 人 と の 関 係	7	10.1
5	人 類 の た め	6	8.7
7	国 の た め	5	7.2

#### (4) 何によつて理想的人間像を決めたか

表7の順位第1になっている本とは単行本であつて教科書ではない。順位2のその他とは、父母のように、女子学生が直接に接していたものなどが主である。第3位の「理想像なし」という理想像を持たない者が15人あつたが、そのうち3人は、「理想的とする人間はないけれども抽象的に、かくかくの人間でありたい」と述べて、その決定経過を述べているので、これ

表7 某女子短大生の描く理想像を決定させたもの

順位	事 項	人 数	%
1	本 や 雑 誌	23	33.3
2	そ の 他	18	26.0
3	理 想 像 な し	12	17.3
4	家 人 の 話	8	11.6
5	先 生 の 話 (授 業 外)	3	4.4
6	友 人 の 話	2	2.9
7	教 科 書	1	1.5
7	テ レ ビ	1	1.5
7	映 画	1	1.5
7	授 業	0	

を除いて12名にした。家人の話による人物は、日蓮・金次郎・シュバイツァー・キリストそれぞれ1人である。家人の話により男性が権威を持つことを知り、女性でありながら男性のようになることを理想とした女性が1人あつた。先生の話による影響が3人あるが、その2人は何れも、その先生の考え方や、父のように感ずることによるあこがれであり、1人はその先生が社会福祉に努力される姿を見てであり、先生の話される人物の物語りによる影響ではなかつた。

友人の話によって影響された理想人物には、

表8 某女子短大生の理想的人間像を左右した場面

順位	場 面	人 数	%		
1	出版・マ スコミ	図 書 ・ 雑 誌	23	25	36.2
		テ レ ビ	1		
		映 画	1		
2	家 庭	父 母 の 感 化 祖 母 の 感 化	16 1	17	24.6
3	そ の 他	理想像なし(12人) ほか(1人)		13	18.9
4	家 人 ・ 友 人	家 人 の 話	8	10	14.5
		友 人 の 話	2		
5	学 校	先 生	3	4	5.8
		教 科 書	1		
		先 生 の 話	0		

サルトル、および妻として母としての理解深い

という話題の主人公である尾崎二右子を理想としている。教科書による影響はシュバイツァーに1人あるだけである。授業による教科書以外の場合やラジオの影響は皆無である。

以上を場面別に分類して、表8を得た。

この表の家庭における17人と家人の話とを加えると合計25人、36.2%になり、第1位の出版やマスコミと同格になる。

### 論 説

前記調査は、人員わずか69名であるから、これを以って総べての女子短大生が、こうであるという結論はできない。そこでこの限られた人数自体の集団を中心として、研究と論説を加えることにする。

#### (1) 理想像の戦前と戦後の比較

戦前は短大はなかったから、正確な比較は不可能である。けれども大正4年に手島精一<sup>(1)</sup>が行った調査の表9が参考になる。

表9 日本で一番えらい人(手島)

	小学6年	高小	中学	計
明治天皇	7	7	19	33
楠正成	1	0	7	8
神武天皇	1	1	1	3
時宗	1	0	2	3
乃木將軍	1	0	1	2

これらはみな教科書によって与えられたものと思われるので試みに教科書の登場人物を調べてみよう。小学校の国定教科書は、明治37年から終戦まで、5回改訂されている。そのうち修身教科書と国語読本に登場する人物を、その登場回数順により10位まで表示する<sup>(2)</sup>。(修身では142人、国語では185人登場している)

表10でわかるように、修身と国語教科書をあわせてみると、最高登場頻度は、明治天皇の

表10 戦前教科書の登場人物男性10位(唐沢)

修身教科書			国語読本		
順位	人 物	課数	順位	人 物	課数
1	明治天皇	20	1	源 義経	15
2	二宮金次郎	18	2	明治天皇	10
3	上杉鷹山	15	2	大国主命	10
4	渡辺 登	12	4	水兵(の母)	7
5	加藤清正	11	4	豊臣秀吉	7
5	フランク リン	11	6	浦島太郎	6
7	豊臣秀吉	10	6	乃木希典	6
8	貝原益軒	9	6	花 咲 爺	6
8	伊藤忠敬	9	6	楠 正成	6
10	佐 太 郎	8	10	神武天皇	5

30回、次が二宮金次郎の18回になっている。戦前は明治天皇と二宮金次郎時代ということができよう。これは富国強兵の国家的要請であり、半封建性の家族主義的社会実現のためであり、天皇絶対主義の国家のよき臣民育成の教育であって、その線による人物が登場し、それによる理想像が育成された。そしてそれがまた対象の理想像を支配した。

女性についても同様のことがみられる。表11

表11 戦前教科書の登場人物女性10位(唐沢)

修身教科書			国語読本		
順位	人 物	課数	順位	人 物	課数
1	ナイチンゲール	7	1	水兵の母	7
2	昭憲皇太后	5	2	天照大神	5
2	井上でん	5	3	紫 式部	4
2	天照大神	5	3	一豊の妻	4
5	おふさ	4	3	禅 尼	4
5	滝 の 妻	4	6	オトタチ	3
7	豊臣秀吉の妻	3	6	万寿姫	3
8	菅原道真の母	2	6	昭憲后太后	3
8	皇 后	2	9	静 寛 院	2
8	春 日 局	2	9	井上カオル	2

によってもわかるように、昭憲皇太后と水兵の母が中心になっている。男性の場合にしても女性の場合にしても、忠孝中心主義であり、しかもこれらを具現した人物を選んだのであり、人

間の本性や人間的の偉大さよりも、業績主義をとっている。以上により戦前の人間像が強く教科書に支配されていたことがわかる。

次に戦後の日本の教科書による理想像の変化をみると、理想像が一変し、武人は全部姿を消し、西洋人が多くなった。特に芸術人が急増して第1位を占めている。ここに文化国家に生きんとし、ヒューマンイズムの人間内面を取扱い、人権尊重や平和を強調しようとしたことが見られる。

昭和22年改訂文部省国語教科書をみると、表12のようになり、芸術家や学者が筆頭になっている。面白いことには二宮金次郎は社会教育者という立場から生きている。これが現在短大生に1名あった原因であるかとも思われる。登場人物は28人で、その数が非常に少なくなった。その上観念性や抽象性を内蔵している。

表12 昭和22年、文部省国語教科書登場人物

順位	職業及人物	人数
1	学者, アインシュタインほか	8
2	芸術家, 運慶ほか	5
3	皇室	3
4	教育家	2
4	実業家	2
4	宗教家	2
7	為政者	1
7	運動家	1
7	文学関係者	1

昭和36年に国語教科書が検定として改訂された。1~6年までの5社発行のものを拾ってみると、合計186人登場している。その内容は表13の通りである。そのうち西洋人は合計59人取り入れている。文学者にはアンデルセンほか19人、科学者はフェーブルほか11人、芸術家はロダンほか6人、思想家はカントほか3人、軍人武人はベルリほか2人、探検家はコロ

表13 昭和36年改訂国語教科書登場人物(唐沢)

順位	職業及人物	
1	文学者, 武者小路実篤ほか	29
2	芸術家, 大観ほか	16
3	俳人・歌人・詩人, 啄木ほか	14
4	皇室関係, 聖徳太子ほか	11
4	探検家・運動家, 永田武ほか	11
6	政治家, 伊井直嗣ほか	8
6	軍人・武人, 義経ほか	8
8	科学者, 野口英世ほか	4
9	官僚, 九鬼隆一ほか	3
10	宗教家, 良寛ほか	3
11	発明家, 佐吉	1
11	勤労家, 大関松太郎	1
11	教育家, 福沢諭吉	1
11	社会事業家, 和井内貞行	1
11	その他	1

ンブスほか1人、政治家はリンカーンほか1人、勤労者はウィリアム・テルほか1人、社会事業家はシュバイツァーとナイチンゲール、発明家はエジソンほか1人、教育家はクラークほか1人である。

東洋人は4人あり、ガンジー、ネール、シャカほか1名である。また皇室関係が極端に変動しているのも見逃せない。

以上のように戦前とはずいぶん変化し、しかも内面的なものに努力が払われているにもかかわらず、教科書による影響は、戦前は極めて大きかったが、本調査ではそれが短大生にはほとんど現われていなくてわずか1名(表8)である。これは教科書自体に原因があるのか、その手段方法に原因があるのかということは、極めて重要な問題点であろう。表8によると学校の影響は最下位に下っている。

相沢節<sup>(9)</sup>が昭和33年に桜川小学校生徒1~6年に「あなたが1番偉いと思う人はだれか」の集計をした。その結果は表14の通りである。同氏の昭和35年における八雲小学校での調査

では表 15 である。

これを見てもわかるように、尊敬人物はバラバラになっており、前述したように戦後の教科書の理想像は、戦前のように、子供に支持されていないといえる。このことは教科書が、現在の生徒の心情を強く振起すようにするための一層の努力を必要とするものであることを物語っていると同時に学校自体のありがた

表14 戦後小学生(桜川)の理想像(相沢)

人 物	人数	%	人 物	人数	%
野口英世	173	13.3	岸 総 理	59	4.5
母	116	8.9	先 生	58	4.4
父	103	7.8	友 人	54	4.1
二宮金次郎	103	7.8	ナイチンゲール	48	3.7
天 皇	85	6.5	リンカーン	41	3.1

表15 戦後小学生(八雲)の理想像(相沢)

人 物	人数	人 物	人数
野口英世	159	母	38
リンカーン	47	北里柴三郎	28
二宮金次郎	46	天 皇	26
エジソン	46	シュバイツァー	24
父	46	久米栄左衛門	24

たにも反省が加えられるべきことを示している。

本調査による女子短大生になると、前記小学

表16 女子短大生の理想像10位まで

順位	人 物	人物	%
1	理 想 像 な し	15	21.7
2	母	9	14.5
3	父	5	7.2
4	ケ ネ デ ィ ー	4	5.8
4	同 夫 人	4	5.8
6	高 校 の 先 生	3	4.4
7	野 口 英 世	2	2.9
7	ナ イ チ ン ゲ ー ル	2	2.9
7	シ ュ バ イ ツ ザ ー	2	2.9
7	林 ふ み 子	2	2.9

生の傾向が、さらに強くあらわれて、理想像の

散在と、理想像を求めるための混乱とをきたし、理想像の喪失に近づいてきたことは、理想喪失者21.7%と、理想像を持っていてもその%の低下が勇弁にこれを示している。(表1参照)このことはまた女子短大生が、何を目的にして短大へ進学してきたかに連るものである。同時に現代女子短大の問題点を露呈している。

また野口英世もシュバイツァーも極めて低位に降り、最も身近かな母などに多く求めている。しかもその母の勤勉さとか従順さとかやさしさに心打たれていることは、女性解放には路遠しの感がある。彼女たちは1部を見て全体を見るのが不足しているのではなからうか。これらの原因には、いろいろあるであろうが、教科書の人物の取り上げ方の再検討や学校乃至教師側の教育目的や方法の問題、およびマスコミの問題もあるであろうから、総合的立場に立って、深刻な問題として検討するべきである。以上のようにみえてくると、現代は小学から短大にいたるまで、理想像の混迷時代、バラバサ時代であり、この69名の女子短大生においては理想像の喪失と母親理想型であると言えそうである。

## (2) 現代理想像の特質

現代生徒学生の描く理想像の特質は、偉人軽視が現われ、身辺よりの1部の事象に感動して、そこから理想像を求めようとしている。その原因の1つに、教科書で偉人は偉人なるが故にえらいという形の説明がなされているために、偉人の偶像化と超人化が行われ、その人間のもつ愛とか誠実とか温かさとか人間の悩みとか、人間的の共鳴感を刺激する記述が、教科書に不足しているために、逆効果をきたし、偉人軽視の傾向が生じたことに、大きい原因があると思われる。表2のように24.6%の女子大学生が肉身から人物を求めているのも、その1つの

現われであろう。表5のあこがれの内容も、その人の内容と相関の業績にあるのではなく、その人の強さとか、優しさとかに指向され、理想とする理由が個人的理由によるものが圧倒的である。例えばケネディーにしても、前述のように彼の人間的なものを通じての彼の業績にあるのではなく、彼の明快な個性自体にあこがれを感じているのである。

要するに戦後の女子短大生は理想像の喪失と、母性的理想像時代であるといえるようである。

### (3) 人間像の混乱から喪失へ

戦前は天皇と二宮金次郎中心であったが、戦後は民主主義が中心思想になったため、西欧的民主主義を模範とし、理想像も外人が多くなった。ところが国状がちがうのでその背景も異っている。だから外人をそのまま日本人の理想像とするには不適當のものがある。日本人には民主的な人物が少なかったから、やむを得ないとはいえ、これが理想像喪失と、女子短大生の母親中心になった大きい原因と思われる。

表1に理想像なき者 21.7% という喪失者があることは注目を要する。教科書はその威力を失い表8の如くわずかに1人。学生の多くは表2の如く狭い身近とくに肉身からの感動をもとにして、これを求めている有様である。表5でわかるように、国家とか世界とか真理とか人間追求とか、より高次な立場から人間像を求めているものは、極めて少い有様である。国家的な仕事をした人物が数人あげられているが、それはその人物の個人的な面に像を求めているのであって、決して国家的立場や人類的立場でその人物を考案されているのではない。それが表5においてあこがれの形で現われている。一体これらの大学生は何んのために大学に入学したの

であろうか。

このような現象に拍車をかけているものに、教育目的の喪失があげられる。現高校生の実際教育目的が大学の入試にあるという様相を呈するかぎり、理想像の喪失状態が続くであろう。表8でわかるように、学校の影響が戦前の最上位から戦後の最下位に転落したことは、学校の自信喪失につながる。

### (4) マスコミの影響

低学年ではマスコミの影響は大きいですが、短大生においても同様である。しかし本調査で理想像確立の上ではテレビ・ラジオ・映画の影響は皆無に近い。むしろ悪い影響の方が多くて、理想像確立のためには、彼らが努力をマスコミに傾倒していないことを示すものである。しかしケネディーがかなり多いのは、新聞・雑誌・テレビの影響であることを思えば、マスコミの一層の努力を望むや切なるものがある。

### (5) 教師の影響

これは極めて少くなってきた。教師の権威喪失につながる問題である。教科書に登場する人物に魅力がなくなった今日、理想像を与える有力者としての教師は、教科書以外の授業か、教科書以外の先生の話に、多くの期待をもって調査したのだが、前者には1人もなく、後者で表2のように3人あったが、それもその教師のような人物になりたいからではなく、その教師へのあこがれが主な理由であった。すべての教師はだれでも、教育に対し情熱と意欲を持たないものはない。それを出し得ない何物かが教師の権威喪失を起し、これが直接的に生徒学生に影響を来しているとするれば、その底辺にある問題を重視しなくてはならない。

### (6) 理想像の低俗化

前記相沢の研究は、小学生にその低俗化がみ

られ、びばり・若の花・力道山・月光仮面など雑多である。としている。ここで述べられている低俗とは、その人物なり職業が低俗というのではなく、人気のなものへあこがれる低俗さというのである。マスコミの影響は戦後の理想像不足のなかに入ってきて、像の平凡化に拍車をかけた。表1における身近な人物から最も多く像を求めているのも、その1つの現われであろう。理想像の喪失と低俗化は、本調査において、女性でありながら、男性を理想とするものまで現われるという異常状態まできたした。

### (7) 理想像発見のよりどころ

戦前はほとんど教科書によって得られた。それは教育に権威が保たれており、教科書の人物表現も具体的であり、伝記的のものが多かったためであろう。ところが戦後は教科書によって得た理想像は、表8のようにわずか1名である。教科書の影響が著しく後退したのである。教師の話からも得るものは少い。彼らは主として単行本や雑誌などから理想像を求めようとしている有様になった。学校の存在は何に求めるべきであろうか。

## 結 言

### (1) 要 約

前記調査の範囲内において考えられることは、戦後の某女子学生の理想像は、その喪失と母親中心である。彼らの理想像は主として教科書の変化によって、多様化しバラバラになり、理想像喪失に向っている。この傾向は教師の必死の努力にもかかわらず、何等の効果をあげていない。彼らは何かを求めようとしても、どこにこれを求めてよいのか、彼らの価値観の迷いが、さらにこれに拍車をかけ、身近かな人物や瞬間的あこがれによって、そのよりどころを決

めている現状である。このことは一般女子短大生でも変りがない。特に女子短大生がその理想像を現代の母に求めているということは、本研究の69人にかぎられることとしても、今後どのようにして女性が解放されるべきであるかということについても、現代女性のおかれている位置についても、ほとんど関心もなければ自覚もないものと思われる。

### (2) 理想像確立のために

現在は理想像確立のために一層の努力が傾倒されなければならない重大な時期に当面していると思われる。そのための1・2の問題をとりあげてみよう。

1. 教育目的観の確立を図れ。すべての教育の場において、教育目的論はまことに貧困である。これを重視しなくてはならない。短大といえどもそれが人間形成の場であり真理や人間の追求の場である。しからばどんな人間をつくらうとしているのか、そのつくらんとする人間は、各教科やその他の教育活動、特に一般教育を通じて行われるべきであるが、その位置づけが研究され、またそれらの間に意志統一を図りて、教育者自体が明確な理想像をもち、学校自体に統一方針が確立しなければならない、お茶の水大学の総合コース制は、特に参考になると思われる。

2. 教科書と教師の権威の回復。彼らが理想を確立する上に教師や教科書はその権威を落してしまった。その原因を究明して再出発をしなければならない。従来彼れらの理想像確立の最も有力な指導者は、教科書と教師であったはずである。

### (3) 教科書の再検討

抽象化の多い現教科書を再検討して、具体的人物、特に伝記的教材を現代生徒学生の心情に



ふれるように示し、それが普遍性と具体性と、世界性をもち、日本の現実と将来とを考えたものでなくてはならない。このことは女子短大生へも大きく影響するものとして受取り、また短大自体も同一精神をもって対処すべきである。

真の理想像は戦前のように、一方的に決定するものではなく、また現実と遊離したものでもいけない。それは教育の理想が中心になるとしても、そればかりでもいけない。

今後の伝記の取り上げ方の注意すべき点は、個人の人間形成要素を重視し、その人物の時代のなかにおいて、悩みつつ人間的弱さを克服して時代に生きた姿などを描き、彼らが共感し、態度変革するものでなくてはならない。作者のモラルが出すぎることは、反撥が起きる可能性があり、逆効果を示すだろう。

#### (4) 政治家の貧困

政治技術家としては、すぐれた人物もいるだろうが、思想家としての政治家の存在は、それがよい悪いは別として、理想像確立に大きい役割をするであろう。

#### (5) 実業家・勤労者・社会事業家の貧困

これらの人々の多くは、無関心であったり、近代的のものがなかったりして、職業倫理や労働観の立ちおくれがみられるのではなかろうか。それが青年の魅力を減殺してゐる。

#### (6) 宗教家の貧困

日本人は宗教性に乏しいように思われる。だから価値の絶対基準が確立していない。宗教的情操を一層ゆたかにすることが、宗教家を先頭にしていあらゆる場に要望されるべきであろう。

#### (7) 芸術家や文化人の問題

戦後は文化業績を重く見てきた傾向があるが、教育の場においては、むしろ創作苦というような人間の面を一層重視する態度をとるべき

であろう。

以上のようなあらゆる面の総合協力と反省とによって、日本の青少年に、希望と理想とを与えることができる。それはわれわれ全国民特に教育者の大きい課題であると同時に、それ自体が現在の教育者の問題でもある。教育は人間を成功させたり、技術や能力を売りこむため、また高い専門知識を与えるためだけのものではなく、またそれによって人間尊重や人間追求の方向に学生の希望を向けさせるべきであろう。

#### (8) 期待される人間像

これはだれかが一括してその道しるべをつくるのはよいことであるが、それを決めるべきものでもなく、完成教育の場であるところの各大学および各自が独自に究明すべきものでもある。それには自己の大学生がどんな理想像をもつかという実際の資料により、それぞれの大学の理想像指導の基礎を打ち立てるべきであろう。このような究明から、自然にその大学の教育方針が決定され、学習内容の選択と単位決定および指導方法も確立する。ここからその大学独自の特性も生まれ、自ら生きていく学生、自ら考える学生が生れることになる。

#### (9) 結 言

本調査により、女子大学生の1部のものが、現実の社会のなかで、混迷のなかにおかれてい実態を知ることができたと思う。われわれ短大女子学生を教育する者にとっては、何らかの方途を講じて、女子学生に援助を与えなければならない。

#### 謝 辞

本調査をするに当り、調査を心よく引き受けられた学校および、資料を与えて頂いた方々に特に相沢節氏、唐沢富太郎教授に対して謝意を

表する。

文 献

1. 手島精一，日本で1番偉いと思う人は誰れかについての調査，初等教育研究誌，大正4年4月号。
2. 唐沢富太郎，教科書から見た世界の教育

Ⅱ，世界の理想的人間像，中央公論社（1962）。

3. 相沢節，校長の散歩道，第一公報社（昭和36）。
4. 池田諭，女子大学，日本経済新聞社（昭和41）。